

20007

ICUにおけるカンファレンスの充実

¹愛知県立循環器呼吸器病センター

梶浦 直美¹、上坂 真弓¹、牛田 真由¹

【はじめに】 当 ICU のカンファレンスは他職種で毎朝行う医療チームカンファレンス、術前症例検討会、看護師で行うケースカンファレンスがある。しかし、各々のカンファレンスを統合して看護に活かすことができていない現状にあった。そこでカンファレンスの目的を明確にして、看護にどう活かすかをスタッフと共に考え、看護ケアをタイムリーに行えるようになったので報告する。【方法】 対象：ICU 看護師 22 名 1. カンファレンスの目的、方法、内容の検討 2. 検討した方法、内容でカンファレンスを実施 3. 取り組み前後のケースカンファレンス回数、内容の変化を議事録から調査【結果・考察】 取り組み前のケースカンファレンスは平均 5.8 件/月であったが、取り組み開始から 6 ヶ月まで：平均 17.6 件/月、7 ヶ月以降：平均 30.2 件/月と件数の増加が見られた。ケースカンファレンスの内容は情報交換が主体であったが、取り組み後は腹臥位や完全側臥位などの患者の個別性を考えた具体的なケア方法の検討と修正、観察・アセスメントポイントを再学習の場とする事もできた。また、医師・ME など他職種からの情報を活用し、看護を導き出すことで適切なケアを経験値に関係なく、タイムリーに実践できるようになった。さらに医療チームカンファレンスや症例検討会に参加する事で、治療方針と看護方針のすり合わせができ、病態や治療、術式によって看護のポイントを他職種と共に検討・確認ができたことで、患者の状態に合わせた看護ケアの実践、評価が行え、適切な看護の提供に繋がったと考える。